

AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント



水田の冬季作業

農業経営支援課 渡辺彰人

冬季は稲の栽培期間ではありませんが、翌春からの水稻栽培の準備期間として貴重な時間です。雑草、ガス害、ジャンボタニシ対策や土づくりなど前作での問題点があれば早めに対処しましょう。

冬季耕運

収穫後に秋耕を行わなかった場合、稲わらや残り株は翌春に水を張った際に急激に分解して多量のガスを発生させて、移植直後の水稻の根傷みを起こします。冬季の内に耕うんして土に混和し、冬から春にかけて分解を進めておくことでガス害の緩和になります。

また、冬季のほ場の地表には多年生雑草や害虫の卵などが残っており、耕うんすることによってそれらを地中に埋めたり寒風にさらしたりすることで枯死、殺虫することができます。

厳寒期に硬く締まった乾田を耕うんすることで、ジャンボタニシの駆除を行うこともできます。この時、トラクターの走行速度は遅く、ロータリーの回転は速くして、土を細かく砕くことが重要です。

ケイ酸資材の種類と使い分け

水稻はケイ酸を多く吸収する作物です。ケイ酸資材を施用する際は土壌診断結果を活用し、足りない成分を補える資材を選びましょう。

- ・ケイ酸加里プレミア 34 60 kg/10 a
苦土4%・加里20%を含みます。加里が不足しているほ場や高温障害の低減におすすめるほ場
- ・とれ太郎 80 kg/10 a
リン酸6%・苦土12%・石灰40%を含みます。苦土が不足しているほ場におすすめる
- ・オイスターミネラル 100 kg/10 a

有機石灰セル力が入っていてミネラルを多く含みます。微量要素が不足しているほ場におすすめる。